

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター 所長

麦類の生育後期における赤かび病防除の徹底について

本年は麦類の開花期頃に断続的な降雨があり、赤かび病が感染しやすい気象条件で推移したため、4月13日に注意報を発表したところですが、その後も断続的に降雨があり、発生が増加しています。

については、確実な2回目防除の実施に加え、小麦では、発生が多い圃場やパン用品種において、かび毒の発生抑制を目的とした3回目防除を実施していただくよう、生産者への指導をお願いします。

記

1. 発生状況（令和8年5月1日定期調査）

- 1)小麦における調査（県内23圃場）では、平均発生茎率は4.0%（平年0.8%、前年0%）と平年より多かった。
- 2)大麦における調査（県内21圃場）では、平均発生茎率は0.9%（平年0.2%、前年0%）と平年より多かった。

2. 防除対策

1)小麦

- (1)本病に対する2回目防除を開花10～20日後頃に行う。2回目防除が遅れている場合は、速やかに薬剤防除を行う。
- (2)圃場での本病の発生状況を必ず確認し、発生が多い圃場や、パン用品種では、2回目防除の7日目以降に、かび毒の発生抑制を目的とした3回目の防除を実施する。収穫前日数や使用回数に留意して薬剤散布する。

2)大麦

- (1)本病に対する2回目防除を1回目防除（葎殻抽出期）の7～10日後頃に行う。2回目防除が遅れている場合は、収穫前日数や使用回数に留意して、速やかに薬剤防除を行う。

3)共通

- (1)刈り遅れや倒伏により降雨に当たると、かび毒発生を助長する原因となるため、適期に確実に収穫する。

